

## IPPS日本支部 第22回群馬大会に参加して

南出株式会社 社長 南出 幹生

今回の群馬大会は非常にうまく運営していただき、良い大会になったことを本当に喜んでおります。登坂様、長岡様および運営委員の皆様のご努力に敬意を表します。

群馬県は会員数が2名しかなく、日本支部の大会のことを知っておられる方が極めて少なかったため、当初大会をしていただくことに危惧を抱いていたのは確かです。入ってくる経過情報も少なかったため、本当に心配していた時期もありました。しかし、予測を見事に裏切り、立派な大会にさせていただきました。

今回の大会で一番良かったと感じたことは、多くの方々が大会運営に関わってくれていたことです。大会を大学で開催していただく場合は、多くの学生諸兄にお手伝いいただける場合が多く、人手は何とかなるようですが、今回のように民間中心で開催いただく場合は人手が不足、運営に支障をきたす危険性があります。しかし、今回は多くの方々が動いておられ安心して見ておりました。更に一般的運営の他に、コーヒーマーカーを用意していただいたり、日本酒の利き酒の催しをしていただいたり、付加価値のある協力が多かったため、より高感度が高い大会になっていました。

多くの方々に運営していただくもう一つのメリットはIPPSや日本支部のことを多くの方々に

知ってもらえる機会になるということです。今回の大会は群馬県にIPPSが育つ端緒になったはずですが、これで実行委員の方々に日本支部会員になっていただけると万々歳なのですが…。(どうかご入会を前向きにお考え下さい)

もう一点特に良かったことは、大会での発表内容がアカデミックになり過ぎなかったことです。増殖という面ではアウトローな私でも結構内容が解るものが多くありました。中でも大西様の発表は生産現場の具体的な話で、多くの人が理解でき興味が持てるものでした。今後このような生産現場のお話が多くなっていけば、立場の違う方々にたくさん参加していただく下地になるのではないかと思います。懇親会の折に実行委員の方々から“こんなアカデミックな会に我々のようなものが参加するのはチョット気が引ける”という声を聞きました。が、それは全く反対だと思います。逆に大学の先生方は現場の声をもっと聞きたいはずですが。

正にIPPSの良さはここにあると考えています。普段話し難い“大学の先生方”と気楽に話せる場です。(特に大会の懇親会では遠慮な→



### 目次

IPPS日本支部 第22回群馬大会に参加して(南出 幹生) .....	1
カキにおける中間台木の可能性(石村 修司) .....	3
「花の国日本」協議会の活動(大西 隆) .....	4
Japan Exchange Report(Kim Wood) .....	5
IPPS-Jの大会予定 .....	8

## IPPS日本支部 第22回群馬大会に参加して

→く率直に話せます) 親しくなれば、“植物のことで教えて欲しい”、“増殖方法を教えて欲しい”とか“新しい資材を実験して欲しい”等々、気さくをお願いすることもできます。この様なことは他の団体では極めて難しいと思います。この様なIPPS日本支部に多くの方々にご入会いただけることを期待しております。

ところで私事ですが、一点追記させていただきます。今回の大会の際、何人かの過去から知っている方々に“南出さんの会社は何をされていますか?”とか、“印刷会社でしたね”とか言われ戸惑ってしまいました。自分の会社をIPPSでPRしてこなかったのは確かですが、あまりにも知っていただけていない、あるいは誤解されていることに少々ショックを受けた次第です。そこで最後に再度弊社の主力品を紹介させていただきます。弊社は農業生産用資材の製造・卸売りが主体で、



主力品はCS POT(スリットポット)、リーズナブルルートポット(不織布ポット)、麻製品(三角根巻き、麻なわ)、コンテナ栽培容器(ポット、トレイ)、灌水資材、防草マット、出荷用ネットバック、支柱、遮光ネット等々です。いずれの商品も何らかのメリットが出せると思いますので、お気軽にお問い合わせ下さい。心からお待ちしております。



【特別講演】倉重 祐三 様

特別講演の倉重祐三様のご講演は、大変に示唆に富んだ興味深いお話でした。江戸の園芸や近代の花き園芸が「ヤブコウジ」「ポタン」「チューリップ」「アザレア」「ボケ」など、新潟県での生産が大きく貢献してきたこと。キリシマが全国に分布し、残っている事の調査報告など。



バラ園の出荷場見学

前橋バラ組合は生産者10名による出荷組合で共同選花体制を整備し、後継者が就農して規格の統一や品質の向上を図り、市場から高い評価を受けている。



カネコ種苗の説明を聞く様子

カネコ種苗では林所長様、徳弘室長様から野菜や花の育種のお話を伺った。



次回大会への大会旗授与

懇親会の最後、次回大会の高知大学の島崎先生に大会旗が授与された。

# カキにおける中間台木の可能性

宮崎大学農学部 研究員 石村 修司



10月に入り、地元スーパーでも秋の味覚であるカキが陳列されるようになりました。どのスーパーも入り口には必ずといってよいほど旬の果物が置いてありますが、つい手にとって品定めをしてしまいます。私は宮崎大学の果樹研究室で研究員として勤める傍ら、週末は実家の果樹園の管理をしておりますが、2年前よりカキ‘太秋’を定植し、来年からある程度の収量が見込めそうです。カキは喬木性でとても大きく成長するのが問題となっていますが、樹勢が強くなりすぎると生理落果を引き起こし、収量が低下してしまいます。実家の園では樹勢を抑えるため、第1図の様に『棚仕立て』で管理していますが、作業効率を高めるとともに誘引固定することで台風被害を軽減する事もできます。しかし設置の際のコストや労力は果樹農家にとって負担となるのが問題です。また、仕立てる際に分岐角度を十分にとらないと徒長枝が発生しやすいので、高い管理技術も求められます。同様な事が果樹の教科書などにも書いてあるかと思いますが、実際に設置してみると金銭的にも労力的にも本当に大変であることを痛感しているところです。

これらの問題の解決法として期待されるのが、わい性台木を利用した栽培方法です。私達の実験室では十数年前からカキわい性台木‘MKR1’の試験を行ってまいりましたが、国内のカキ主要品種である‘富有’、‘平核無’、‘太秋’を‘MKR1’台木に接ぎ木した樹はわい化することが明らかとなりました。ところがカキは挿し木による発根

が難しく、台木を養成するだけでも時間がかかってしまいます。そこでわい化する樹を作出するにあたり、通常使用する実生の台木にわい化効果のある中間台木と穂木の品種を同時に接ぎ木する(2重接ぎ)方法でわい化することが示されれば、苗木生産の短縮やコストダウンにもつながり、有用な技術として利用できるものと思われます。2013年より中間台木を利用した樹を定植したところ‘MKR1’を中間台木とした樹は‘MKR1’のみを台木とした樹よりも効果は劣るものの、わい化する傾向にある事が示され(第2図)、今後も調査を継続していく予定です。

先日、北里大学特別荣誉教授の大村智先生がノーベル医学・生理学賞を受賞したことは記憶に新しいことと思いますが、研究者として分かれ道に立った時、幼少のころから忙しかった母の代わりに面倒を見てくれた祖母から『とにかく人のためになることを考えなさい』と教えられてきたことが方向性の基準となったと述べられたそうです。わい性台木や中間台木の利用を確立する事ができれば苗木の生産現場や農家の方々の役に立ちますし、わい化のメカニズムが明らかとなれば、その他の果樹への応用も期待できます。風土病などから人の命を救う技術ではありませんが、人のためになる技術としてこれからも昇華させていきたいと思っております。



【第1図】カキの棚仕立て(撮影場所:石村果樹園)



【第2図】5年生‘富有’樹(撮影場所:宮崎大学圃場)

# 「花の国日本」協議会の活動

有限会社セントラルローズ 代表取締役  
JFMA 理事 「花の国日本」協議会 理事 大西 隆



「日本国内の花の消費動向が変わりそうだ。」  
過去日本経済の成長とともに、花の消費もかなり進んできました。バブルの絶頂期にはガーデニングブームも有って、その消費は目を見張るものでありました。

ところが、バブル崩壊後は一転してその消費は低迷し、価格も下落。花に携わる関係者の経営もかなり厳しさをまして、生産者、売店等も廃業に追い込まれる人も少なくありません。現在では少しずつ景気も回復状況というものの、業務使用、個人消費もまだまだ低迷気味です。全国の花市場の取扱量や売上高を見ても、前年並みであれば良いところで、それを下回るところも少なくありません。

こんな状況を打開しようと、5年前より新しい動きが起き始めました。それはフラワーバレンタインです。バレンタインはチョコレートを贈る習慣がありますが、これは日本だけの習慣であって男性が女性にお花を送り、そのお花に気持ちを託して贈るのが本来の習慣なのです。この習慣、文化を定着させてすこしでも花の消費拡大に結び付けようと、JFMAが関連のフラワーバレンタインワーキングチームを立ち上げ、その活動を進めてきたのです。

お花屋さんにも足を運ぶことのなかった男性に、少しでもお花に関心を持ってもらい新しい消費層を開拓しようとするのが狙いでもあります。花業界一体となってこの活動を始めて5年がたちますが、今では全国各地で消費PRの成果は着実に上がってきています。2月のバレンタインデーの数日前から男性がお花を買う姿が目立つようになりました。過去にはこんな風景は見られなかったと思います。新しい花の消費の流れができつつあります。

また昨年からはフラワーバレンタインの実績を

基に、より一層の消費拡大を狙って「花の国日本」協議会を立ち上げました。

## 「花の国日本」協議会

**基本理念:**「FLOWERING JAPAN」

世界一花や緑が身近な日本に

**基本方針:**①新しいパイを！より大きなパイを！

②理想に向かってChallenge

③Speed重視

この基本理念を基に、大きな成果を得るために各地での活動を活発化させることが重要です。

フラワーバレンタインの経験を基に、今Weekend Flowerの活動を進めようと計画中です。週末にお花を買って家族だんらんにお花を、また友達同士のパーティーに、または恋人に……。

我々「花の国日本」は、日々この活動に努力を続けているところです。ぜひご理解とご協力、参加を申し上げます。

日本国内の花の消費を拡大するためには、日本の花の文化、習慣を変えなければなりません。これには相当の時間と経費も掛かるでしょう。しかし我々はそれに挑戦し、新しい花文化をきずきあげるように業界一体となって努力しなければならぬと思います。成果は必ず上がるものと確信しております。

# IPPS Japan exchange 2015

IPPS日本支部への交換研修 2015年

IPPSニュージーランド支部 キム・ウッド  
Kim Wood



Getting from my hometown of Kihikihi to the city of Toyohashi in Japan was an exhausting whirlwind experience. Everything was so completely alien, but the more I saw the more I realised it was these differences in the people and the places that make Japan so compelling and beautiful.

Akemi was my lovely host in Toyohashi. Our first destination was her company's tissue culture laboratory. What made the greatest impression on me was the dedication and efficiency of the staff, and their skill at manipulating tissue to a high standard while processing around 1000 plants per hour. At greenhouses on another site of the business I was able to see how staff maintained mandevilla propagated from cuttings. The dead leaves and material were removed by tweezers that were disinfected continuously. While time consuming this is obviously a good practice as the plants were of an exceptionally high quality. We then visited a garden centre, where I could have happily spent a whole day. The range and quality of the plants available was fantastic. They also had an amazing range of landscaping supplies, seeds, bulbs, tools, fertilisers and composts. While in Toyohashi we had the opportunity to visit the botanical gardens and zoo. I really enjoyed the conifers and deciduous trees, many of which I was unfamiliar with. Akemi and I had some interesting discussions about issues in the Japanese horticulture industry. Japan faces many of the same issues that we have in New Zealand; environmental concerns, not enough young people entering the industry and large chain stores out competing smaller businesses and growers.

From Toyohashi I then went to a small →

私の地元であるキヒキヒから日本の豊橋市までの旅は、疲労困憊の慌ただしい体験でした。何もかも全く馴染みのないものばかりでしたが、深く知れば知る程、人々や土地のこういった相違点が日本を非常に魅力的で美しい国にしているということを実感するようになりました。

水谷朱美さんが豊橋での私の素敵なホストでした。私達が最初に向かったのは彼女の会社の組織培養研究所でした。最も印象深かったのはスタッフの熱心さと効率の良さ、そして、1時間に約1,000本もの植物を処理しながら高度な基準に従って組織を取り扱うことのできる技術の高さでした。同社の別の敷地にある温室では、挿し穂から増殖させたマンデビラの管理方法を見学することができました。枯れた葉や他の部分はピンセットで取り除くのですが、そのピンセットは絶えず殺菌されていました。これは、時間は掛かりますが優れた方法であることは言うまでもなく、温室内の植物は並外れて良質なものでした。次に行ったのは園芸専門店、そこは一日中居ても楽しく過ごせるような場所でした。販売されている植物の種類の豊富さと品質は素晴らしかったです。造園用植物、種、球根、工具、肥料、配合土も驚くほど豊富な品揃えでした。豊橋では植物園と動物園を訪れる機会もありました。針葉樹や落葉樹の多くは私の知らないものでしたが、大いに楽しめました。アケミさんと私は、日本の園芸業界の問題について何度か興味深い議論をしました。環境への懸念、業界に入る若者の不足、中小企業や生産者と競合する大規模ホームセンターの出現といった、ニュージーランドが抱える多くの問題に日本も同様に直面しているのです。

豊橋の次に向かったのは岡山市の御津という小さな町で、生食用ぶどうやドラゴンフルーツを栽培している大内さんご一家のお宅に滞在しました。ジョニーさん、お母さん、ニールさんは、数日で私の第二の家族のようになりました。私 →

→ village called Mitsu to stay with the Ohuchi family who grow table grapes and dragon fruit. Johnny-san, Okaasan and Neil-san became like my second family for a few days. When I arrived they were preparing for the famous table grape festival. That night we had a concert in the café. The was very entertaining and there was plenty of good food and lots of beer. The following morning we were up early and straight to work at the local shrine where the festival was being held. At 10am the queuing hordes were set loose upon the stalls. It was madness! I have never people so enthusiastic about fruit. It was very tasty though! We all worked really hard had a lot of fun. That night at the growers meeting I learnt that I had a new nickname among the villagers. "Power Girl". I think my new name was because I helped the men with loading the trucks. I had such a lovely time with the people of Mitsu, it reminded me so much of home! I was lucky enough to have the chance to visit Johnny's orchid nursery, which was a two hour drive. The natural beauty of the area was amazing; the mountains and forest dominated the landscape, with rivers and waterfalls alongside the road.

Saying goodbye to the Ohuchi family, I travelled on to the small city of Suzuka to stay with the Uchida family. Uchida-san is a very inspiring person. I admire his ability to operate both a strawberry farm, café and landscaping business- this flexibility and knowledge in multiple disciplines of horticulture was very impressive. On my first day in Suzuka Uchida-san took me to visit a tree auction, large tree nursery and two properties that he is landscaping. The tree auction was amazing. Trucks and people were swarming everywhere like bees. The trees that had been sold were flying through the air on cranes, being loaded into trucks. The large tree nursery we visited was great, I had never seen trees with such a healthy and well-developed root systems. I had the opportunity to learn →

→ が到着した時、ご一家は有名なぶどう祭りの準備をしていました。その日の夜、農園内のカフェでコンサートが開かれました。とても楽しいコンサートで、色々な美味しい料理と沢山のビールが供されました。翌朝、私達は早起きして、ぶどう祭りが開催される地元の神社に直行して作業しました。午前10時、行列に並んでいた大勢の人々が屋台へ駆け出しました。その熱狂的なこと! 果物にそんなに夢中になる人々は見ることがありません。でもなんて美味しい果物でしょう! 皆必死に働いて、本当に楽しかったです。その日の夜の生産者の会合で、町の人達が私に「パワー・ガール」という新しいニックネームを付けたことを知りました。私が男の人達と一緒にトラックに荷物を積み込むのを手伝っていたからだと思います。御津の方々と本当に素晴らしい時間を過ごしたので、自分の家が恋しくなっていました! また、幸運にも車で2時間の場所にあるジョニーさんの洋蘭園にも伺うことができました。この地域の自然の美しさは素晴らしく、見渡す限りの山や森、道路に沿って川や滝が流れていました。

大内さんご一家に別れを告げ、地方都市である鈴鹿市へ移動して内田さんご一家のお宅に滞在しました。内田さんは人を大変元気にさせて下さる方です。苺農園、カフェ、造園会社をまとめて経営されている手腕に敬服し、こういった柔軟性と様々な園芸分野の知識を持たれていることに大変感銘を受けました。鈴鹿での初日、内田さんは植木の競売会場、大規模な植木園、内田さんが造園工事を行っている2ヶ所の物件に連れて行って下さいました。植木の競売には驚きました。トラックや人がまるでミツバチのようにあちらこちらに集まっています。売れた木はクレーンで吊り上げられ、トラックに積み込まれます。私達が訪れた大規模な植木園は素晴らしく、→



大内さんご一家と一緒に



洋蘭園にて

→ about the methods used to grow these trees, I hope that this information may benefit the tree growers in New Zealand. Uchida-san's landscaping projects were very interesting. I own a landscape design business so I was excited to learn what ideas motivated Japanese garden design. Uchida-san explained that a connection with the land, the property owner and nature was important to incorporate into the garden. This is similar to the ideas in European and Maori garden design of 'Genius loci' and 'Tangata Whenua'. Even though our gardens look completely different, the desire to connect people with nature is international. Uchida-san also took me to visit some famous historical sites in Kyoto. I thought all of places were extremely beautiful but my favourite was Ryōan-ji. As a landscaping student I learned about Ryōan-ji. I never thought that I would be able to see this place. This was a dream come true, I will always remember the beauty of these gardens.

From Suzuka we went to the conference in Maebashi. I really enjoyed visiting a rose growing nursery, plant breeder and seed producer and the huge home store. After the conference I travelled with Akemi-san, Kiko-san and Peter-san to Tokyo. We had a very fun time visiting the castle, shops and restaurants. Leaving Japan and my new friends was very sad. The two weeks I spent traveling through this amazing country felt like a very short time.

I was not an experienced traveller prior to this trip. I did not realise that travel would →



龍安寺の庭園

→ あんなに健康で良く発達した根系を持つ木は見たことがありませんでした。そういった木の栽培方法を教えて頂く機会に恵まれたので、ここで得た情報をニュージーランドの植木生産者のお役に立てられればと思います。内田さんの造園事業はとても興味深いものでした。私も造園設計会社を所有しているので、日本の庭園設計がどのような着想に刺激を受けているのか学ぶことができ嬉しかったです。その土地、物件所有者、自然のつながりを庭園の中に取り入れることが重要だと内田さんは説明してくれました。これは、「ゲニウス・ロキ」や「タンガタ・フェヌア」というヨーロッパとマオリの庭園設計に対する思想に似ています。私達の庭園は全く異なるように見えますが、人と自然をつなぎたいという願いは万国共通です。内田さんは京都の有名な史跡にも連れて行って下さいました。その史跡はどこもすべて非常に美しいと感じたのですが、私のお気に入りには龍安寺です。造園を学ぶ学生として龍安寺について勉強しましたが、実際に龍安寺を訪れることができるとは考えていませんでした。夢が実現し、これらの庭園の美しさを忘れることはないでしょう。

鈴鹿市を後にし、前橋で開催されるIPPS日本支部の大会に向かいました。大会2日目にはバラ栽培農園、植物育種家、種子生産者、広大なホームセンターの見学を心から楽しみました。大会後、水谷朱美さん、磯野貴子さん、ピーターさんと東京に行きました。お城やお店、レストランでとても楽しい時を過ごしました。日本を離れ、新しくできた友人達とお別れすることはとても悲しいことでした。この素晴らしい国のあちらこちらを旅した2週間はとても短く感じられました。

今回の旅に出るまで私は旅慣れているほうではなかったので、旅を通じて畏敬、不快、→

→ expose me to feelings of awe, discomfort, inspiration, fear, love and excitement. I hope I will be able to visit Japan again, there is so much more to learn and to see! Thank you for this life changing experience.

→ インスピレーション、不安、愛、興奮といった感情に自分がさらされることになるとは思っていませんでした。またぜひ日本を訪れたいと思います。知りたいこと、見たいことがまだまだ沢山あります！人生を変えるような体験をさせて頂き、有難うございました。  
(訳文：㈱赤塚植物園 田中)



懇親会の様子



ピーターさん、水谷さん、磯野さんと一緒に

## IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

- 2016年9月24日(土)・25日(日) — 第23回 高知大会 (担当：高知大学 島崎一彦先生)  
高知大学 朝倉キャンパス (高知市曙町2-5-1)
- 2017年11月 — 第24回 沖縄大会 (担当：南九州大学 前田先生)、沖縄県
- 2018年 — 第25回 和歌山大会 (担当：近畿大学 文室政彦先生)、和歌山県

## IPPS-J 第十期理事・監事・役員・理事代理名簿 (2015.1.1~2016.12.31)

役職	氏名	会社・所属
1 会長	大橋 広明	愛媛大学
2 副会長	水谷 朱美	(株)ベルディ
3 副会長	石井 克明	国際環境研究協会
4 事務・会計理事	南出 幹生	南出(株)
5 編集理事	富田 正徳	バイエルクroppサイエンス㈱
6 国際理事	鈴木 隆博	(株)浜松花き
7 理事	藤森 忠雄	(株)赤塚植物園
8 理事	速水 正弘	静岡県立農林大学校
9 理事	大西 隆	(有)セントラルローズ
10 理事	内田 恵介	グリーンクラフト
11 監事	鉄村 琢哉	宮崎大学

役職	氏名	会社・所属
12 本部 国際理事	Peter F.Waugh	Carann
13 国際交流推進委員	大森 直樹	(株)山陽農園
14 年史編纂委員	遠藤 弘志	
15 理事代理	青山 兼人	兼弥産業(株)
16 理事代理	文室 政彦	近畿大学
17 理事代理	乗越 亮	東京農業大学
18 理事代理	大内 盛勢	(有)スコレー
19 理事代理	佐藤 伸吾	三菱樹脂アグリドーム(株)
20 理事代理	島崎 一彦	高知大学
21 理事代理	登坂 初夫	(株)登坂園芸

### 編集後記

今年の秋は例年に比べて、ここ津市では晴天の多い年になりました。皆様の方ではいかがでしょうか。

さて、第22回群馬大会は、登坂実行委員長さんを中心に実行委員の皆様のご努力により、大変に素晴らしい大会になりました。特別講演、研究発表、懇親会、翌日の現地視察と全て有意義な内容になりました。この場を借りて実行委

員の皆様に感謝申し上げます。

来年からニュースレターの発行は年2回(1月と6月)となります。会員の皆様には、その都度、投稿をお願いいたしますが、ご協力の程、宜しくお願い致します。原稿が多くなると、文字は少々小さめになりますが、多ければ多い方が良いでしょう。会員自身の自己PRが少ないように感じます。遠慮せずにドシドシ投稿ください。ニュースレター担当：藤森忠雄